

# 中田鈴子

## ～盲ろうのトライアスロン～

トライアスロン。それは言わずと知れた最も過酷な競技。日本は37.5万人の競技人口を有している。その中に、唯一「盲ろう者」として挑戦し続ける女性がいた！



### 中田鈴子（写真 左）

ろう者であった中田さんは30歳の時に視力が低下し「盲ろう」者になりました。そんな彼女は、月に1度トライアスロンチームに参加し、練習をしています。監督の大西さんの motto 「諦めなければゴールできる」を胸に日々努力を重ねました。その結果、練習から3か月で大会に挑み、スイム（泳ぎ）を最後まで泳ぎ切れました。

### —中田さんの努力と周囲のサポート—

中田さんの得意種目は「バイク」。バイクでは、手を触ることで意思疎通を図っています。大西さん（監督）が中田さんの左手を触り、足を一緒に止めます。ランでは「ロープ」を「ガイド」と一緒に握って走ります。速度を変える時には、ロープの持ち方を変え、その意思を伝えます。スピードを上げる際は短く持って伝えます。一番苦手なスイムはゴムのロープでガイドと足を繋いだ状態で泳ぎます。水中での競技のため、バイクやランのような意思疎通はできません。しかし、その中でも泳ぎがぴったり合うように練習しています

### 中田さんと子育て

30歳で盲ろう者になった中田さんには二人のお子さんを育てている際に、大変な思いをしたと言います。それは、子供が風邪をひいた際に、病院に連れていくことができなかったと言います。その際は、夫が帰ってくるのを待っていたそうです。そんな経験をした中田さんですが、トライアスロンによって「自宅にこもりがちだった日々の生活も大きく変わった」と仰っていました。

### 最後に

現在の世の中では、障害のある方に100%のサポートはできないかもしれませんが、このようにスポーツなどの可能性を信じ、生きがいを見つけることはできると思います。その、可能性を信じ、支援を考えていきたいです

参考文献：[トライアスロンは私の生きがい —盲ろうの主婦の挑戦—前編 | NHK ろうを生きる難聴を生きる](#)